

平成22年 4月26日現在

研究種目： 若手研究 (B)
 研究期間： 2007～2010
 課題番号： 19720095
 研究課題名 (和文) 中国西南部の同系多言語社会における地域特徴形成の調査研究

研究課題名 (英文) Areal Features of the Languages spoken in Cognate-Multilingual Communities in Southwestern China.

研究代表者

白井 聡子 (SHIRAI SATOKO)
 名古屋工業大学・大学院工学研究科・准教授
 研究者番号：70372555

研究代表者の専門分野：言語学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：川西走廊諸語、チベット＝ビルマ語派、記述言語学、地域言語学、フィールドワーク、ダバ語、チアン語支、中国

1. 研究計画の概要

中国西南部の諸言語の記述を基盤として、相互の対照研究をおこない、地域特徴の形成過程を考察することにより、個々の言語の全体像とその成り立ちを解明する。そのために、次の3つの段階を追って研究を進める。

- (1) 未記述言語の全体像の記述：ダバ語、スタウ語、ギャロン語を対象として、現地調査および精密な記述を進める。
- (2) 地域特徴の実態の解明：(1)の成果を基盤として、語彙、音節構造、動詞句の構造、視点表示システムなどについて、対照研究を行うことにより、地域特徴の実態を明らかにする。
- (3) 地域特徴の形成過程の分析：同系多言語社会における動的な実態と、(2)で得られる地域特徴の実態を総合的に分析することにより、どのように形成されてきたかを解明する。

2. 研究の進捗状況

- (1) 未記述言語の全体像の記述：四川省成都市および甘孜藏族自治州道孚県、雅江県において現地調査を実施した。主にダバ語メト方言について、文法調査のほか、民話や自然発話等のテキスト資料の収集をおこない、それ以前の資料とも合わせて、詳細な記述を進めてきた。特に、証拠性の表示、方向接辞の体系とそのアスペクト機能、存在動詞の体系と補助動詞としての機能、格体系、動詞連続など文法現象の諸問題に関する分析を行ってきた。また、ダバ語ダメ方言、スタウ語、ギャロン語についても語

彙調査と基礎的な文法調査を行い、記述を進めている。

- (2) 地域特徴の実態の解明：ダバ語の記述を基盤として、先行研究を用いて周辺言語および遠隔地の同系言語との対象を進めてきた。その結果、動詞形態法の1つである方向接辞や、存在動詞を用いたパーフェクト形式などの現象について、系統を超えた地域特徴としての広がりを示すことができた。特に、動詞接頭辞が方向の表示を担う現象は、この地域で話されるチアン語支の諸言語とチベット語支のペマ語に共通して見られるが、他のチベット語支の言語には見られない。このほか、コンピュータや文末小辞の体系についても、周辺言語の資料を横断的に考察しつつ分析を進めている。
- (3) 地域特徴の形成過程の分析：現在、分析を進めている。現地調査で得た資料や他言語に関する先行研究を対照することにより、特に、方向接辞や、存在動詞を用いたパーフェクト形式といった現象について、同源からの継承ではないことが明らかになってきた。

なお、以上述べてきた研究成果は内外の学会等での口頭発表や論文の形で発表したほか、データを他の研究者も利用可能な形で電子化している。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

未記述言語の調査については、ダバ語メト方言について詳細な記述が可能な資料を収集できたほか、他の言語についても調査を行

ってきた。しかし、2008年以降、対象地域の政治的情勢が不安定化したため、現地調査に支障が出、スタウ語等の調査は進んでいないのが現状である。しかし、限られた資料を用いて最大限の努力をもって分析を進めており、地域特徴の実態解明についてはすでに一定の成果を出している。地域特徴の形成過程については、まだ十分な成果が出ていないが、今後研究の最終段階として進めるべきものであり、この点については当初の計画通りである。全体としては、理想的な進捗度よりはやや遅れているものの、期間終了までに十分な成果が期待できると言える。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度にあたり、資料分析と研究討議を中心として研究を進める計画である。現地調査については、これまでの分析結果をもとに、焦点を絞って短期間に実施する。一時資料と文献資料の分析を進め、地域言語学や他地域のチベット＝ビルマ語派に関する研究もふまえて、地域特徴の実態とその形成過程について考察を進める。内外の学会において成果を発表し、研究討議を通して分析の妥当性を検証する。本研究課題の成果をまとめ、簡易製本の形で公表してさらなる議論の土台とする。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

- ① SHIRAI, Satoko 2010. “Perfect constructions with existential verbs in nDrapa.” *Himalayan Linguistics*. 近刊. 査読あり.
- ② SHIRAI, Satoko 2009. “Directional prefixes in nDrapa and neighboring languages: An areal feature of western Sichuan.” *Issues in Tibeto-Burman Historical Linguistics*. Senri Ethnological Studies 75, pp. 7-20. 査読なし.
- ③ SHIRAI, Satoko 2009. “Auxiliary constructions and serial verb constructions in nDrapa.” *Proceedings of the Chulalongkorn-Japan Linguistics Symposium* (Studies in Corpus-Based Linguistics and Language Education 2). pp. 241-249. 査読なし.
- ④ SHIRAI, Satoko 2008. “Effects of animacy on existential sentences in nDrapa.” 『言語研究』134, pp. 1-22, 査読あり.
- ⑤ SHIRAI, Satoko 2007. “Evidentials and evidential-like categories in nDrapa.”

Linguistics of the Tibeto-Burman Area 30. 2, pp. 125-150, 査読あり.

[学会発表] (計7件)

- ① SHIRAI, Satoko 2009/11/03. “Copulas in nDrapa.” The 42nd International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics. Chiang Mai: Payap University.
- ② SHIRAI, Satoko 2008/11/22. “Telicity and directional prefixes in nDrapa.” Workshop on Tibeto-Burman Languages of Sichuan, Taipei: Academia Sinica.
- ③ SHIRAI, Satoko 2008/09/18. “Existential verbs in verb serializations in nDrapa.” The 41st International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics, London: SOAS, The University of London.
- ④ SHIRAI, Satoko 2008/09/09. “Directional prefixes in nDrapa and neighboring languages.” Symposium “Linguistic Substrata in Tibeto-Burman Area,” 国立民族学博物館.
- ⑤ SHIRAI, Satoko 2008/05/01. “Auxiliary verbs in nDrapa: In contrast with serial verb constructions.” Chula-Japan Linguistics Symposium, Bangkok: Chulalongkorn University.

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]